

## 健康長寿社会とオーダーメイド医療

細井 孝之

国立長寿医療センター先端医療部 部長

健康で長生きする。健康長寿は誰もが望むことです。世界に類を見ない速度で人口の高齢化が進んでいるわが国は、健康長寿の実現という課題にもっとも早く取り組むことをせまられているといえるでしょう。さて、何歳からが「高齢者」なのでしょう？少なくとも行政上は65歳以上が高齢者とされていますが、今はこの年齢でも自他ともに「高齢者」らしくないと思われるかたもたくさんいらっしゃいます。生活の自立度や病気の罹りやすさなどを多角的に検討して、高齢者の定義は見直していかなければならないかもしれません。このようなことを考える必要がでてきたのは、生活環境や生活習慣の変化が、加齢に伴う身体の変化に影響を与えているためでしょう。加齢に伴う変化(老化)には、遺伝的素因として持って生まれてきたものと環境要因が総合的にかかわりあっている現われです。

このような日本人全体におこっていることに加えて、個人ごとの病気の罹りやすさやお薬の利き方の差も、遺伝的素因と環境因子の相互作用によって決められます。同じ生活習慣をもっていても病気になる方とならない方もいらっしゃいますし、同じ治療薬を使っても副作用が発症する方と発症しない方がいらっしゃいます。個人差を遺伝子のレベルで前もって知っておくことによって、安全で効果的な診療が進められる体系を作り上げるために、オーダーメイド医療実現化プロジェクトが進められています。病気のなりたちや薬の作用には多くのステップがあります。この研究には多くの皆様のご協力が必要です。たとえば、中高年の女性に多く見られる骨粗鬆症の発症には、多くの遺伝子と複数の生活習慣が関わっており、まだ特定の原因遺伝子は見つかっていません。日常よく遭遇する多くの病気には多くの因子が関係しているため、有用な情報を得るためには多くの皆様のご協力が必要です。

オーダーメイド医療の「オーダーメイド」とは、出来合いの服ではなく、それぞれの体形に合わせて作った服のように個人ごとに最適な医療を提供することです。もう一歩進んで、個人やご家族が新しい医療の特徴を十分理解した上で、それぞれのライフスタイルにあった医療を「オーダー」できるように、わかりやすく情報を提供することも高齢化社会におけるオーダーメイド医療を確立していく上で大切なことだと思います。

### 講演者プロフィール

1981年 千葉大学医学部医学科卒業し臨床研修後、1983年～1986年 東京大学医学部第3内科学部研究生、1986年～1990年 バンダービルト大学医学部血液研究部門研究員として血液学の研究に従事。1990年からは東京大学医学部老年病学教室で老年医学、骨代謝の研究と臨床に携わる。1998～2005年 東京都老人医療センター内分泌科にて医長を経て部長、2005年7月 国立長寿医療センター先端医療部長に着任し現在に致る。

東京大学医学部老年病学教室非常勤講師、東京都老人医療センター非常勤専門医

日本老年医学会サンド老年医学賞、第20回日本骨代謝学会学術賞などを受賞

日本骨代謝学会英文誌副編集長・評議員、日本老年医学会幹事・代議員